自らの努力が報われる農業で農作物を生産する喜びを

花き経営　荒木町　宇佐川 英明 さん（35歳）

後継者になる決意

様々な職種を経験しながら、30歳までに、生涯の職を決めようと考えていた宇佐川英明さん。花き農家の父親が、新たにガーベラを導入したことを機に、後継者になることを決意しました。大阪の花市場での1年間の研修後、27歳で就農し、現在、約58アールのハウスで、ガーベラを主体に、トルコギキョウ、ユリなどを栽培しています。

市場ニーズに応じた生産

英明さんは、市場などからの花の種類や色目に関する情報を元に需要の動向を見極め、栽培面積を調整することによって、安定出荷やコスト低減を追及しています。

また、品種に合った栽培条件を探りながら、農薬を極力使用しないなど、品質と管理手法にもこだわっています。それでも、「一番の指導者である父からは、まだまだと言われる。」と笑って話します。

新たな展開を見据えて

農業の魅力は、自ら考えて努力した結果が返ってくること。一方で、手を抜くと、しっぺ返しがあるため、年間数日の休みの日でも、常に花の状態が気になるそうです。

重油価格の高騰等もあり、すぐにというわけにはいきませんが、将来的な規模拡大や法人化も視野に入れています。

その際には、従業員個々に責任を持たせ、現在の英明さんのように、「作業する本人が喜びを感じられるような運営形態を目指したい。」との思いを語ってくれました。